

施策 No.	政策名	子どもから高齢者まで健康で共生のまちづくり	主管課	児童福祉課	主管課長名	
1-1	施策名	子育て支援の充実と少子化対策の推進	関係課	健康推進課、こども園、学校教育課、国保年金課、農林課、生活環境課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度		
	市民 子育てをする保護者	①桜川市人口	見込値	人	見込値	37,653	37,269	36,647	36,500	35,897	
実績値						37,653	36,794	36,120			
②中学生までの子ども(乳幼児・児童・生徒)を持つ世帯数			見込値	世帯	見込値	2,320	2,310	2,300	2,290	2,280	
						実績値	2,320	2,213	1,950		
			見込値	世帯	見込値						
						実績値					
施策の意図		成果指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度		
安心して子どもを産み、子育てが できている。		①子育てがしやすいまちだと思う割合	%	%	目標値	37.4	40.0	44.0	50.0	55.0	
						実績値	37.4	36.3	38.1		
			②子育てが楽しいと感じる保護者の割合	%	%	目標値	91.9	92.3	92.4	92.5	92.7
							実績値	91.9	97.5	95.7	
				%	%	目標値	72.3	72.5	73.0	73.5	74.0
	実績値						72.3	66.9	66.6		
	%	%	目標値								
				実績値							
	成果指標設定の 考え方	○安心して子供を産み子育てができるには、子育てがしやすいまちと思う割合が増加すると、子育てしやすい環境が整っていると考えられ出生率も上昇する。 ○子育て支援が充実することによって子育てが楽しいと考える保護者の割合が増加すると考えられる。 ○女性の就労人口が増えることにより仕事と子育ての両立が厳しいと思われ、子育て支援が必要と考えられる。									
	成果指標の把握 方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①子育てがしやすいまちだと思う割合、③仕事と子育てが両立できていると思う保護者の割合は、市民アンケートより求める。②子育てが楽しいと感じる保護者の割合は、乳幼児健診時アンケートより求める。									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)		
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した
背景要因	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年3月末の年齢別統計表によると、5歳児 193人・4歳児 174人・3歳児 172人・2歳児 129人・1歳児 113人・0歳児112人と、年々児童数が減少している状況にある。 桜川市が子育てしやすいまちだと思う割合は、令和5年度実績値 36.3%、今年度は 38.1%と向上した。 子育てが楽しいと感じられる保護者の割合は、令和5年度実績値 97.5%であったが、今年度は95.7%と昨年度より低い数値となっている。 仕事と子育てが両立できていると思う割合は、令和5年度実績値 66.9%、今年度は 66.6%とほぼ横這いである。 	
2) 成果目標の達成状況		
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った
背景要因	<ul style="list-style-type: none"> 桜川市が子育てしやすいまちだと思う割合はかなり低い。メディア等で「子育てしやすいまち」が紹介されると普段は意識されない「まち」単位での「子育てのしやすさ」に意識がいつて相対的に「子育てしにくいまち」と感じられるためと考えられる。 反面、子育てが楽しいと感じられる保護者の割合は前年度より減少も9割を超えている。メディア等で紹介される事例が主に都市部での取組であることが多く、都市部の子育て環境と対比してのびのび子育てができていていると感じる保護者が多いのではないかと考えられる。 仕事と子育てが両立できているという割合は6割で都市部との対比で就業及び保育の選択肢が少なく感じられるのではないかと考えられる。 	

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
<ul style="list-style-type: none"> 次の事業において一定の成果が出せた考える。 保育所入退所事務、保育の必要性認定事務・・・現在、待機児童はなく、希望する保育施設への入所及び保育の必要性のある子どもの入所について適切に処理・審査を経て入所決定を行い保護者が安心して働ける状況ができた。 学童クラブ運営について、市内7か所の学童クラブで、放課後に保護者不在の児童に対し児童が安全に過ごすことができる場所の提供ができた。 地域子育て支援拠点事業・・・子育て親子の交流を通じ、子育ての不安感を緩和し、子育て支援に結びついている。 出産祝い金支給事業・・・子を出産した者及び配偶者に対し、子ども一人当たり10万円を支給し子育て家庭の経済的負担の軽減を図ることができた。 入学祝い金支給事業(令和4年開始)・・・小・中学校及び義務教育学校等に入学する子どもを養育する保護者に対し、児童1人当たり10万円を支給し子育て世帯の経済的負担の軽減を図ることができた。 教育・保育施設利用者負担軽減化事業・・・多子世帯の経済的負担の軽減につながり経済的支援ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎年々、学童利用児童が増加しており、学童での子どもの安全確保、また学童支援員等の働きやすい職場環境のため、学童支援員等の確保が急務である。また入所申込について、適正な学童クラブ利用を図るため入所受付見直しを適宜行う。また、今後の事業の円滑な遂行に向け、民間委託等による運営方法の検討を行う。